

教員採用試験

教員免許状を取得しただけでは教員として働くことはできません。「教諭」として教壇に立つためには、公立・私立を問わず採用試験（選考）に合格する必要があります。

教員採用試験に向けて、最新かつ正しい情報を入手することが大切です。ぜひ、積極的に教職サポートルームを活用してください。また昨今の教員採用試験では「教師の資質」が厳しく問われており、面接等に選考の重きを置く「人物重視の傾向」が年々強まってきていますので筆記試験の勉強だけでなく日々自分を磨く努力をしましょう。

公立学校

公立学校における教員採用試験は、正式には「教員採用候補者選考試験（検査）」といい、さまざまな試験を実施して、教員の候補者として適した人材を選抜する試験です。多くの課題を抱える近年の学校教育においては優れた教師の確保が重要となっており、最近の教員採用試験では人物を重視する傾向にあります。

教員採用数と競争率

現在の教員採用試験は、2018年（平成30年）頃を境に減少期に入っていくことが予想され、競争率も下げ止まり傾向にあります。

採用状況は地域差が大きく、毎年発表される各自治体の採用者数や競争率を確認するようにしましょう。

こうした地域間格差に加え、校種間でも競争率には大きな差が生じています。小学校の競争率は下げ止まり傾向にあるものの、中学校の現在の競争率は全国平均で7倍程度に緩和されています。これに対し高等学校は教科にもよりますが依然として9倍程度の厳しい競争が続いています。

いずれにせよ、採用試験を突破するには、計画的な準備と情報収集、そして効率的な試験対策が必要です。

教員採用試験の内容

教員採用試験は基本的に1次試験と2次試験で構成されています（一部の県・政令指定都市は1次・2次の区別なし）。筆記試験中心の1次試験で受験生を最終合格者の1.5倍～3倍にまで絞り込み、1次試験に合格した人だけが、面接や論作文、実技中心の2次試験に進むことができます。

1次試験は毎年、7月に行われています。北海道、東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州のブロックごとに同じ日に実施されるのが特徴です。もちろん、日程が重複しなければ、いくつかの都道府県ならびに政令指定都市（以下自治体）を併願することもできます。

2次試験は8月上旬～9月末にかけて行われます。試験の内容は、主に面接試験や論作文試験、実技試験が行われますが、自治体によっては教養試験や専門試験を実施する場合があります。試験の結果は9月中旬～10月中旬に発表され、合格（最終合格）すると「教員候補者名簿」

に登載されます。

採用試験では、次のような内容が1次試験と2次試験に振り分けられて実施されています。ただし、自治体ごとに形式や傾向は異なるので注意してください。

試験名	試験内容
筆記試験	教養試験と専門試験が行われます。教養試験は、教職に関する知識を問う教職教養と、一般的な知識を問う一般教養からなります。また専門試験は、志望する校種・教科に関する内容について出題されます。
論作文試験	教育論や実践的な指導方法のテーマを課し、受験者の人物像や教師としての考え方・資質を評価します。
面接試験	個人面接・集団面接・集団討論・模擬授業・場面指導など、さまざまな形態で行われます。最近では教員としての資質能力を兼ね備えているかを重視する傾向にあり、面接試験のウェイトが大きくなっています。そのため、2～3回面接を行ったり、模擬授業や場面指導を取り入れたりして、受験者の人物像や教師としての資質能力を多角的に評価します。
実技試験	小学校の音楽や体育、中学校・高校の英語・音楽・家庭・保健体育・工業・商業などの教科・科目で行われます。その教科・科目に関わる基本的な技術・技能を有しているかを判断します。
適性試験	教員の資質として要求される諸々の特性について、客観的に調べるために実施されます。主に、クレペリン検査・Y-G性格検査・MMPⅠ（ミネソタ多面人格目録）などが用いられます。

試験の合格と採用

教員採用試験は、試験結果の上位者から順に「教員候補者名簿」に登載され、教員需給を調整した上で候補者名簿の中から採用内定が出されます。したがって、最終合格者数が教員需要数を上回った場合は採用されないこととなります。ただし、候補者名簿は1年間有効ですので、採用されなかった場合でも、その期間内に教員の欠員が生じたときには採用されることがあります。しかし、採用がなかった場合は、次年度の試験を再受験しなければなりません。最近では、その年度の採用試験において候補者名簿に登載されながら採用されなかった者に対して、次年度の1次試験を免除するといった特別な措置をとる自治体が増えてきています。

なお採用内定者については、市区町村教育委員会や学校長による面談を行った後、本採用・赴任校が決定します。

私立学校（園）

私立学校（園）における教員採用試験は、校種や自治体によって異なりますので、希望する学校（園）の求人があるのか、求人があるのならどんな選考試験を行うのか、ホームページ等から情報を収集しなければなりません。また教師教育リサーチセンターに届いた求人票から、情報収集するのも良いでしょう。いずれにしても、公立学校のように定期的に採用があるのではなく、欠員が出た場合の補充採用となりますので、積極的に行動することが必要です。

* 私学適性検査の受検が必須の場合、学校（園）が独自で行う採用試験とは別に、私学適性検査を受検しなければなりません。

教員・保育士 就職支援プログラム（通学）

区分	講 座	対象学年			
		1年	2年	3年・ 院 生	4年・ 院 生
教育委員会 学内説明会	公立学校教員採用選考 学内説明会《春・秋・冬季》 （東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、埼玉県、 さいたま市、千葉県・市、茨城県、静岡県、静岡市、浜松市、堺市等）	●	●	●	●
	東京教師養成塾 募集説明会（東京都）《教育学部対象》	●	●	●	
	かながわティーチャーズカレッジ 学内説明会（神奈川県）	●	●	●	○
	ふじさわティーチャーズカレッジ 学内説明会（藤沢市）	○	●	●	●
	よこはま教師塾「アイ・カレッジ」 学内説明会（横浜市）	○	●	●	●
教員・ 保育士 就職 ガイダンス	さがみ風っ子教師塾 学内説明会（相模原市）	○	●	●	●
	学習スタートガイダンス・学内講座説明会（各学年向け）	●	●	●	
	教員希望者直前就職ガイダンス（希望地調査） 幼小中高			●	
	保育士希望者直前就職ガイダンス（希望地調査）			●	
	私立教員就職ガイダンス（小・中・高）			○	●
教職講座 セミナー等	幼稚園教諭・保育士・福祉職直前就職ガイダンス			○	●
	公立保育士試験直前対策ガイダンス			○	●
	教職講座（1年生向け・年間） 《教職課程基礎講座、一般教養・模擬試験、 ガイダンス・学内講座説明会、現職教員体験談等、各種講座を含む》	●			
	合宿研修「教員になるための基礎を築こう！」	●	●		
	教職講座「コミュニケーション力向上のために！」＜第1・2弾＞	●	●		
年間 採用対策 講座	「教師の伝える力」養成セミナー		●	●	○
	教職特別講座（1年生向け）	●			
	教員・保育士採用試験対策講座Ⅰ（就職ガイダンス）		○	●	
	教員・保育士採用試験対策講座Ⅱ-1（論作文・基礎）		●	●	
	教員・保育士採用試験対策講座Ⅱ-2（論作文・実践）＜～3月＞			●	
	教員・保育士採用試験対策講座Ⅲ（面接・実践）＜～2月＞			●	
	教員・保育士採用試験対策講座Ⅳ（集中講座）実技含む		○	●	
	教員・保育士採用試験対策講座Ⅴ（論作文）				●
	教員採用試験対策講座Ⅵ（第一次試験対策）等				●
教員・保育士採用試験対策講座Ⅶ・Ⅷ（試験直前）				●	
筆記試験 対策等	教員・保育士採用試験対策講座Ⅸ（登載者対象）				●
	実技対策講座「幼稚園教諭・保育士コース」		○	●	
	基礎力向上講座（数学・理科）	●	●	○	
	教職教養対策講座		○	●	○
	筆記試験対策「一般教養A（人文・社会）」「一般教養B（数学・理科）」	●	●	●	○
	筆記試験対策「専門教養（小学校等）」		●	●	○
	教職Web講座「教職・一般・専門等」＜～翌年7月＞	●	●	●	○
	過去問ワークショップ			●	
	県別学習相談会			●	
模擬試験	教員採用試験「直前対策講座」				●
	教員採用模擬試験（全国公開模擬試験a・b）	○	●	●	○
	教員採用模擬試験（首都圏近郊・自治体別）		○	●	●
	教員採用模擬試験（主に地方向け）		○	●	●
	教員採用模擬試験（プレイバック模擬試験）		○	●	○
	教員採用模擬試験（トライアル模擬試験）	●	●		
保育士就職模擬試験	○	●	●	●	

区分	講 座	対象学年			
		1年	2年	3年・ 院生	4年・ 院生
就職支援体 制（通年）	教職サポートルームにおける個別相談	●	●	●	●
	キャリアカウンセリング（個別相談）	●	●	●	●

※ 講座によっては別途受講料が必要となるものがあります。詳細については、UNITAMA等の掲示にて確認してください。